川崎市議会議員
本間 賢次郎 ケンジロウ
市政レポート No.52（令和４年４月号）

未来へ働き続ける、想いを「ツナ」ぐ。
イメージキャラクター：本マグロ ツナジロウ
事務所 〒210-0834 川崎市川崎区大島 3-14-17
TEL044-742-8072 FAX044-211-1081

４月のご挨拶

本年は国の新型コロナ対策に伴って新年早々に川崎市議会も臨時議会を開会し、例年ならばその年の第１回議会となる予算議会は、第２回定例会として、去る２月 14 日に開会しました。

本市の令和４年度の当初予算の規模は、一般会計が 8,785 億円に及び、８年連続の過去最大規模となっています。市税収入は、3,671 億円と３年ぶりに増大に転じ、過去最大となるものの、コロナ禍における対応は予断を許さず、社会保障や防災・減災施策、持続可能な都市形成と運営の充実など、将来を見据えた多くの課題に取り組まねばなりません。

これらに対し、市議会は第２回定例会において、常任委員会での質疑の他、３月７日～同 10 日に予算審査特別委員会を設置し、新年度予算案に対して重点的な議論を重ねて参りました。そして、同 18 日の本会議にて採決を行い、新年度予算案等を可決致しました。

先述のとおり、多くの課題が立ちはだかる状況下ではありますが、市民の生命と健康を守り、経済の回復と活性化に向けて、新年度も各取り組みへと臨んで参りますので、よろしくお願い申し上げます。

川崎市立看護大学がいよいよ開学！

本市では、社会の保健医療の向上に寄与する有能な人材の育成を目的に、平成 7 年 4 月に看護専門学校を前身とした川崎市立看護短期大学を開学し、今日まで 2,000 名を超える卒業生を世に送り出してきました。さらに時代が進み、医療の高度化やニーズが多様化する中、そうした社会に対応するべく、四年制大学の設置に向けた検討を重ねてきました。

そして、昨年第３回定例会（令和３年９月２日～10 月８日）において、「川崎市立看護大学条例」「川崎市立看護大学奨学金条例」「川崎市看護師

等就学資金貸与条例の改正」が議案として提出され、全会一致をもって可決。今春の開学を迎えました。

本市として短大から四年制大学へと転換することについて、議会では活発な議論を重ね、「国の求める看護教育の充実に応えるには三年制の短大ではカリキュラムが過密であること」、「学生の四年制大学志向の高まりもあり、看護師不足が社会課題となっている現況」といった直面する諸問題に対応すべく、改めて四年制大学を開学することで、より有為な人材の育成に資すると考えています。また、本市では地域包括ケアシステムを推進しており、新大学では、「地域包括ケアシステムに資する人材を養成し、地域社会における健康と福祉の向上に貢献することを目指す」とし、地域に根差した人材を輩出し、人々が住み慣れた地で自分らしい生活を送れるよう同システムの推進者として活躍することが期待されます。

こうした経緯を経て、新年度を前に去る3月26日に開学セレモニーが行われ、定員100名の新入学生を迎え、いよいよ今月より開学致しました。

↑ 挨拶する坂元 昇 学長（中央）。左は福田 紀彦 市長、右には橋本 勝 議長。
令和4年3月26日
川崎市立看護短期大学（当時）内＝幸区小倉＝にて

新入生の入学試験は大きな関心を集め、前期試験では8倍、後期試験では27倍となる定員を大きく上回る受験応募がありました。また、新入生の8割超が市外からの入学生となり、福田市長は「今回、『川崎』を選んでくれた学生が、将来も『川崎』を選んでくれるまちづくりを進めなくてはならない」と述べ、坂元学長は「市民に愛される、貢献する学生の育成、学校運営を行う」、地域連携についても、「市民参加型」の取り組みを推進していくと力強く決意を表しました。2名の新入学予定者の代表者も参加し、今後の学生生活への期待や将来への抱負を述べ、会場からは激励の拍手が送られました。

今後も市立大学として、市民の健康、福祉向上に資する有為な人材の輩出と市内の医療や福祉全体において市民が安心して暮らすことのできるよう充実した体制の構築に議会の立場からも行政との連携を一層図り、取り組んで参ります。

市政レポート令和4年2月号・3月号休止について

毎月発行の本紙ですが、本年2月号、3月号の発行をお休みさせて頂きました。お詫び申し上げますとともにご了承の程、お願い申し上げます。